

# 農林水産省 令和6年木質バイオマスエネルギー利用動向調査

[http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/mokusitu\\_biomass/index.html](http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/mokusitu_biomass/index.html)

本調査は、2025年（令和7年）12月26日に林野庁から公表された、2024年（令和6年）の木質バイオマスエネルギー利用動向調査です。この調査は、木質バイオマスエネルギー利用動向を把握し、木材利用の推進、木材の安定供給、地域振興など森林・林業施策の推進等を目的に、木質バイオマスを利用している発電施設等を対象に行われました。

この資料は調査結果の内容を分かり易く理解していただく為に、グラフ等により可視化して掲載しています。この資料に関して林野庁へのお問合せはご遠慮ください。

一般社団法人 日本木質バイオマスエネルギー協会

〒110-0016 東京都台東区台東3丁目12番5号 クラシックビル604

TEL : 03-5817-8491 FAX : 03-5817-8492

E-mail : [mail@jwba.or.jp](mailto:mail@jwba.or.jp)

# 目次

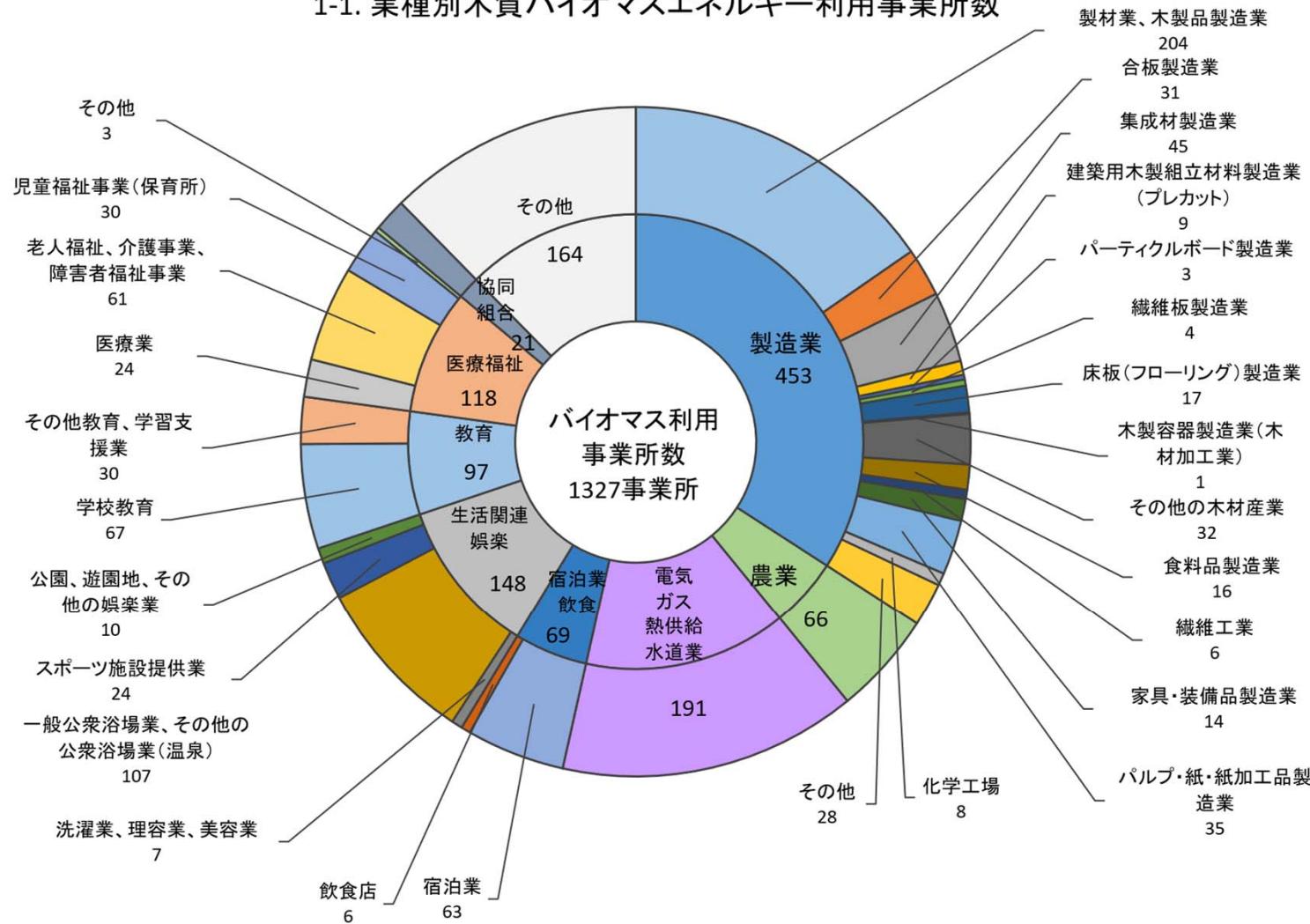
<b>1 木質バイオマスエネルギー利用事業所に関する項目</b>	
1 業種別木質バイオマスエネルギー利用事業所数	3
2 業種別灰の処理方法別事業所数	4
<b>2 木質バイオマス利用に関する項目</b>	
1 業種別木質バイオマスの利用量	5
2 事業所における利用目的別木質バイオマスの利用量	6
3 事業所における利用目的別木材チップの由来別利用量	7
4 業所における利用機器の所有形態別木質ペレットの由来別利用量	9
5 木質バイオマスと非木質バイオマス燃料の非木質バイオマス燃料種類別混焼実施事業所数	10
6 木質バイオマスと化石燃料の化石燃料種類別混焼実施事業所数	11
<b>3 発電機に関する項目</b>	
1 業種別種類別発電機数	12
2 業種別電気の用途別発電機数	14
3 事業所の従業員規模階層別事業所数及び発電機数	15
4 出力規模階層別発電機数	16
5 発電機の種類別平均出力規模	17
6 使用年数階層別発電機数	18
7 出力規模階層別平均稼働日数、時間	19
8 業種別補助金等活用数	20
<b>4 ボイラーに関する項目</b>	
1 業種別種類別ボイラー数	21
2 業種別及び熱の用途別ボイラー数	22
3 事業所の従業員規模階層別事業所数及びボイラー数	23
4 出力規模階層別ボイラー数	24
5 種類別平均出力規模	25
6 使用年数階層別ボイラー数	26
7 出力規模階層別平均稼働日数、時間	27
8 業種別補助金等活用数	28
<b>5 その他(付帯設備等)</b>	
付帯設備等の業種別補助金等活用数	29

## 1-1. 業種別木質バイオマスエネルギー利用事業所数



2024年（令和6年）における木質バイオマスエネルギーを利用している発電機及びボイラーを有する全ての事業所（バイオマス利用事業所）は1,327事業所（前年比23事業所の減少）でした。

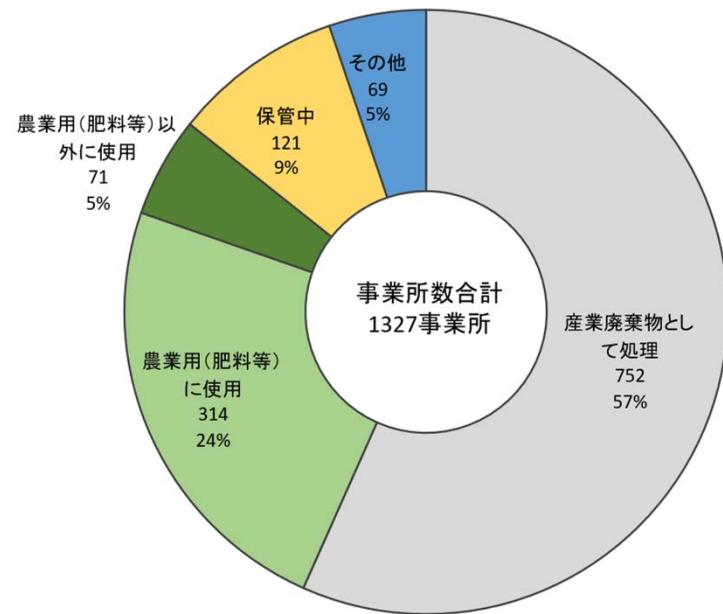
### 1-1. 業種別木質バイオマスエネルギー利用事業所数



# 1-3. 業種別灰の処理方法別事業所数

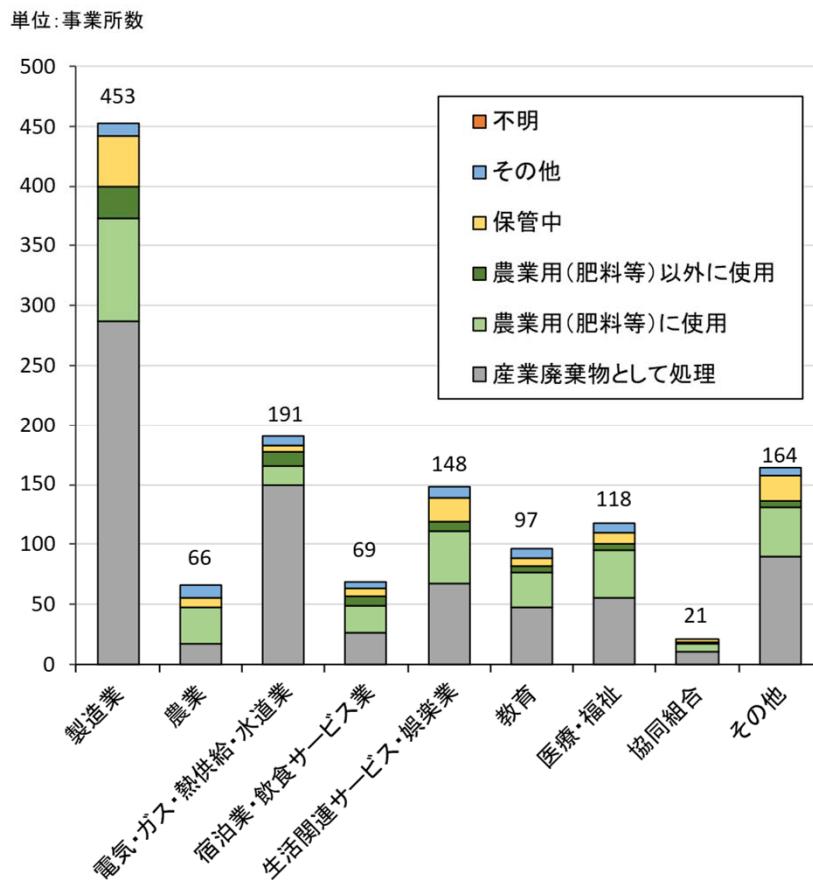
木質バイオマスの燃焼後に発生した灰の処理方法別事業所数は、1327事業所のうち「産業廃棄物として処理」が752事業所（57%）、「農業用に使用」が314事業所（24%）などです。

1-3. ①灰の処理方法別事業所数 ①処理方法別内訳



※灰の処理方法が複数ある場合は、最も処理量が多い方法を選んでいます。

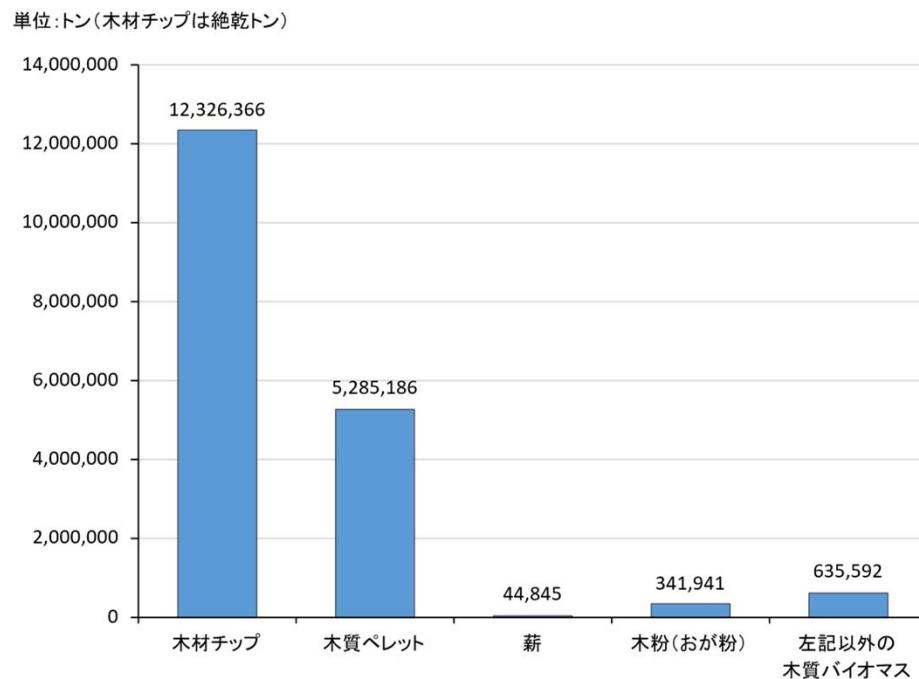
1-3. ②灰の処理方法別事業所数 ②業種別内訳



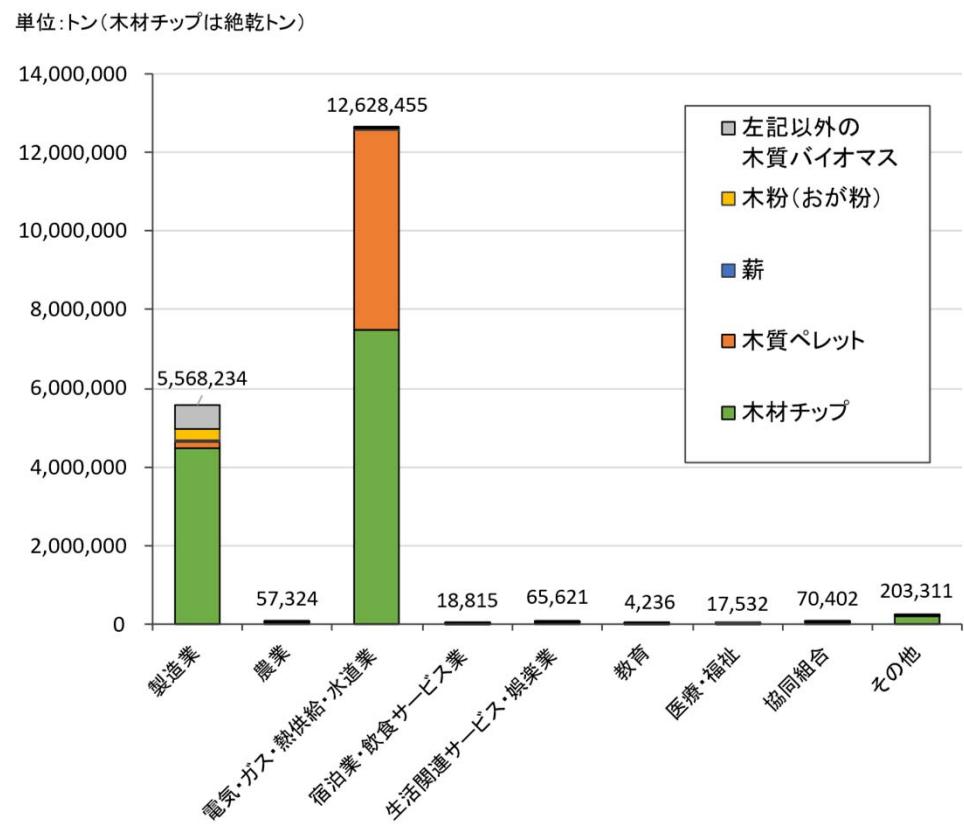
## 2-1. 業種別木質バイオマスの利用量

2024年（令和6年）の木質バイオマスの利用量は、木材チップが12,326,366絶乾トンで利用量の多くを占めています。木質ペレットの利用量は5,285,186トンでした。

2-1. ①業種別木質バイオマス使用量 種類別



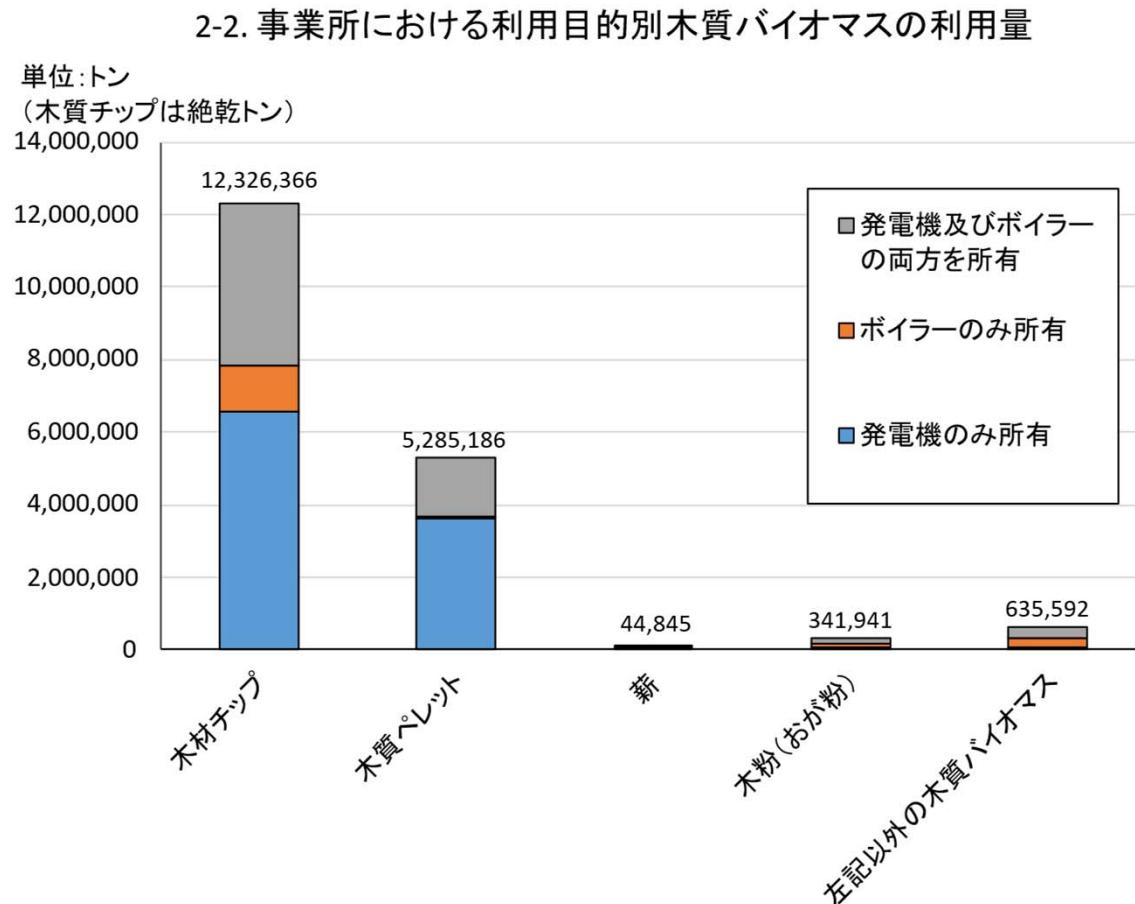
2-1. ②業種別木質バイオマス使用量 業種別



※木材チップの単位は絶乾トン、その他の利用量の単位はトン

## 2-2. 事業所における利用目的別木質バイオマスの利用量

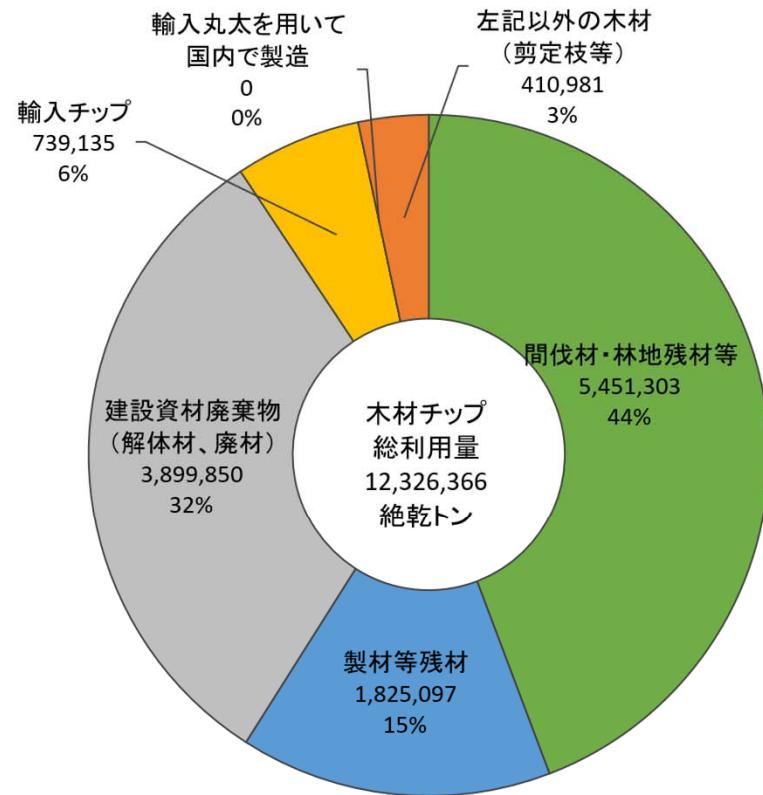
木質バイオマスの利用量を利用目的別に区分すると、以下のグラフのようになります。木質バイオマスの種類によって利用の内訳に特徴を持っています。



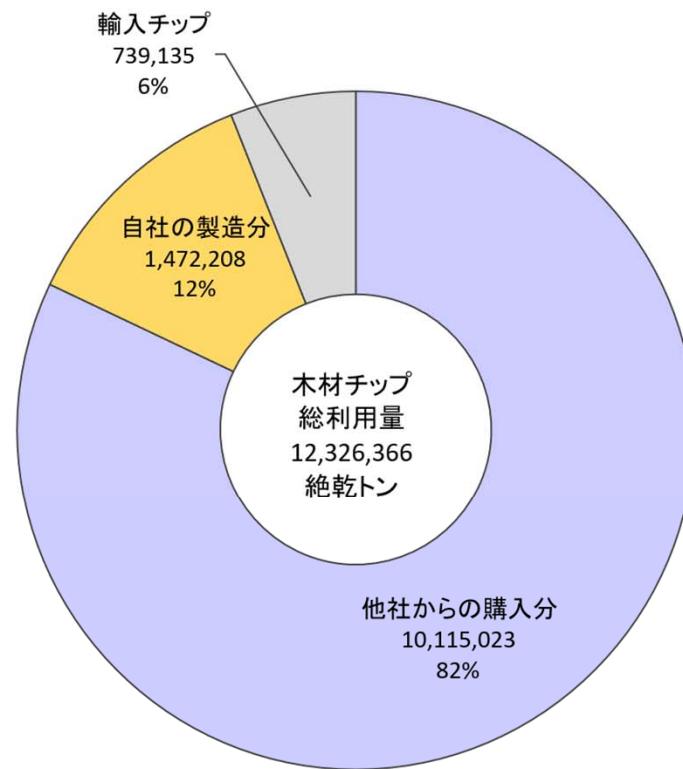
## 2-3-1. 木材チップの由来別利用量

木材チップの総利用量12,326,366絶乾トンのうち、44%が「間伐材・林地残材等」で、次いで「建設資材廃棄物」が32%、「製材等残材」が15%です。調達別では、「他社からの購入」が82%、「自社の製造」が12%です。

2-3. ①木材チップの利用量 由来別



2-3. ②木材チップの利用量 調達別

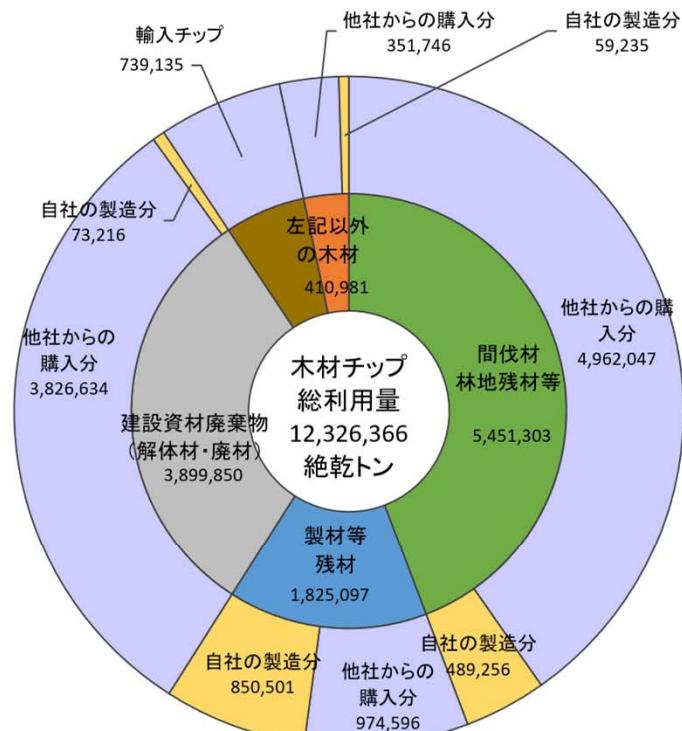


## 2-3-2. 木材チップの由来別利用量

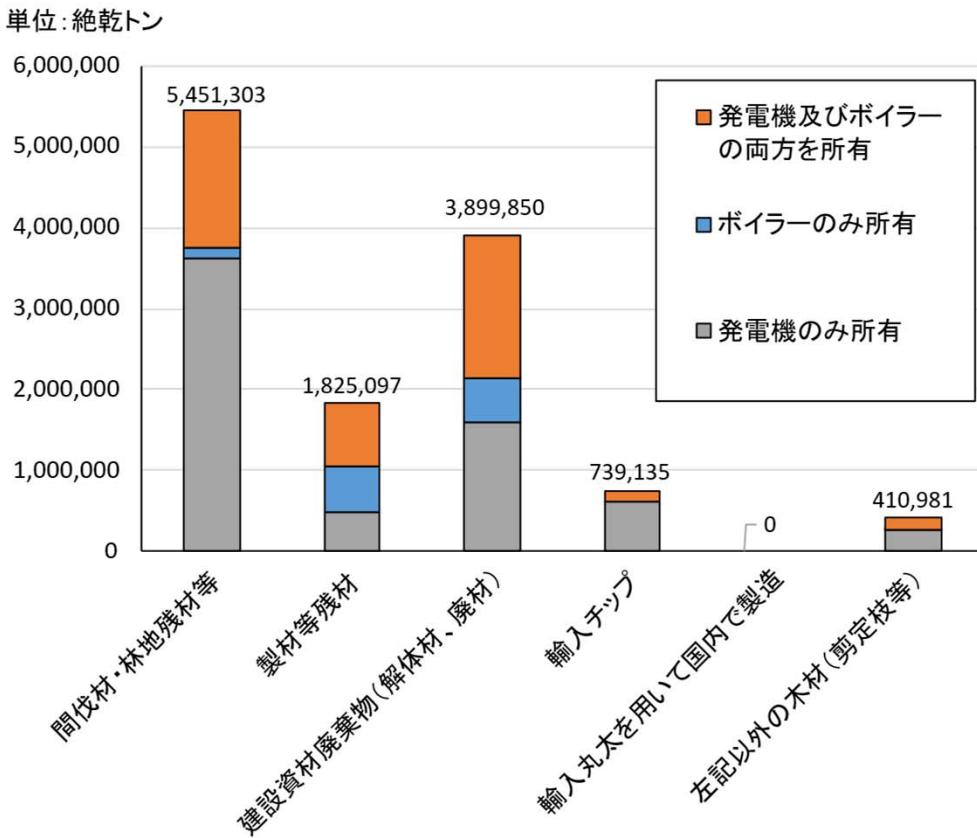
木材チップの利用量のうち自社・他社の内訳を見ると、「間伐材・林地残材等由来」のうち92.8%が他社からの購入、「建設資材廃棄物由来」のうち99.0%が他社からの購入、「製材等残材由来」のうち59.5%が他社からの購入です。

木材チップの利用目的を見ると、「間伐材・林地残材等」は発電に多く使われ、「製材等端材」「建設資材廃棄物」は熱利用にも多く使用されています。

2-3. ③木材チップの由来別利用量 自社・他社内訳



2-3. ④木材チップの由来別利用量 利用目的別

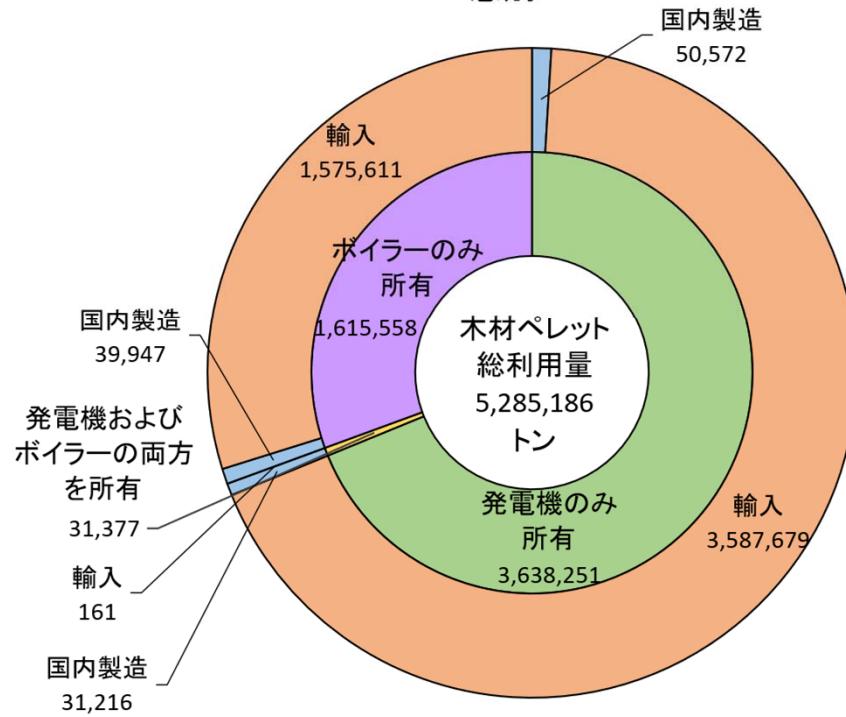


## 2-4. 事業所における利用機器の所有形態別 木質ペレットの由来別利用量

木質ペレットの利用量は、令和5年の3,941,049トンから令和6年の5,285,186トンへ前年比34.1%の増加と大きく伸ばした。長期的に見ると平成29年の375,383トンから、7年後の令和6年には約14倍の5,285,186トンへと大幅に増加している。

事業所における利用機器の所有形態別・木質ペレットの由来別利用量を見ると「発電機のみ所有」（発電主体と思われる）の事業所は、輸入木質ペレットに依拠しており、「ボイラーのみ所有」（熱利用主体）の事業所は、国産木質ペレットに依拠していることが読み取れます。

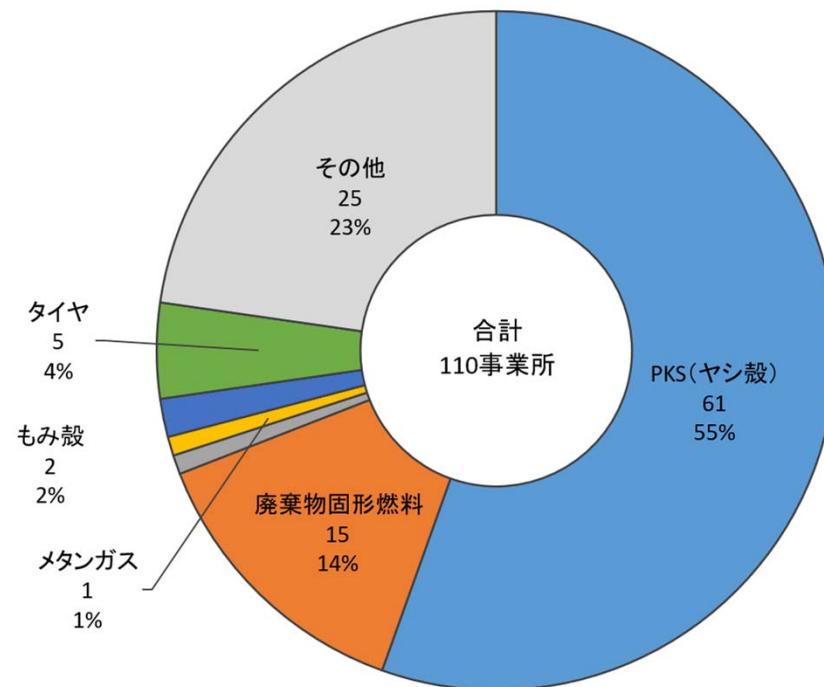
2-4. 木質ペレットの由来別利用量 利用機器の所有形態別



## 2-5.木質バイオマスと非木質バイオマス燃料の 非木質バイオマス燃料種類別混焼実施事業所数

木質バイオマスと木質バイオマス以外の燃料（化石燃料以外）を混焼している事業所数は、平成30年94事業所、から、令和6年110事業所と推移しています。

2-5. 混焼実施事業所数 燃料種別内訳

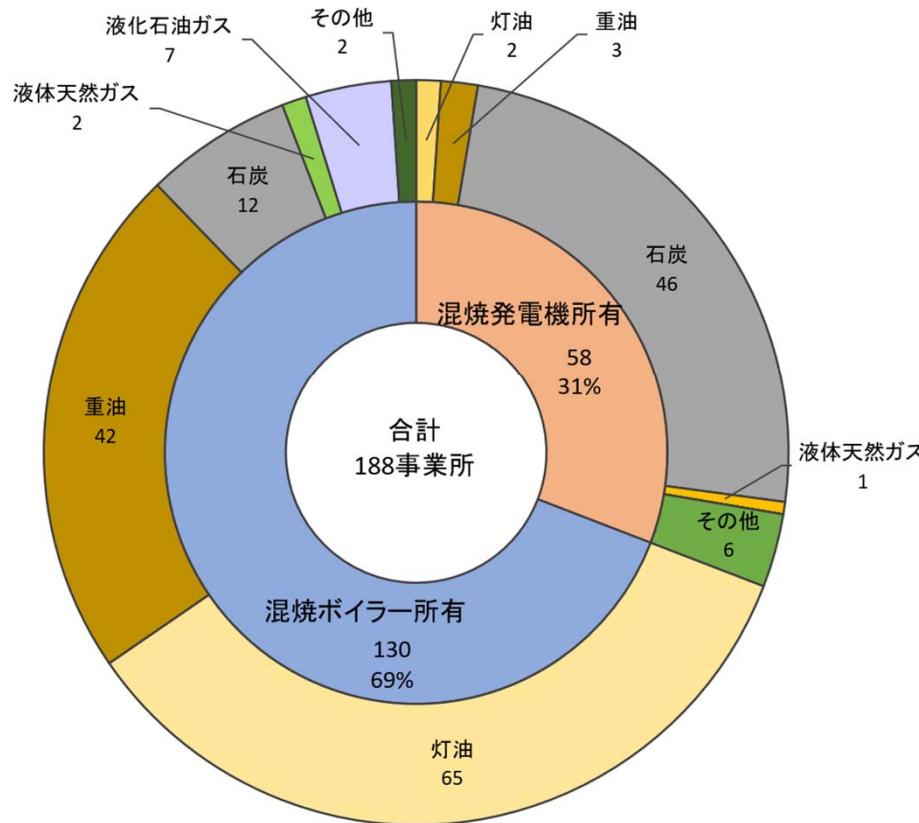


## 2-6.木質バイオマスと化石燃料の化石燃料別混焼実施事業所数

木質バイオマスと化石燃料の混焼事業所は188事業所で、混焼発電機所有が58事業所、混焼ボイラー所有が130事業所です。

混焼発電機所有事業者の燃料内訳は「石炭」が大きい割合を占め、混焼ボイラー所有事業者の燃料内訳は、「灯油」「重油」が多くを占めています。

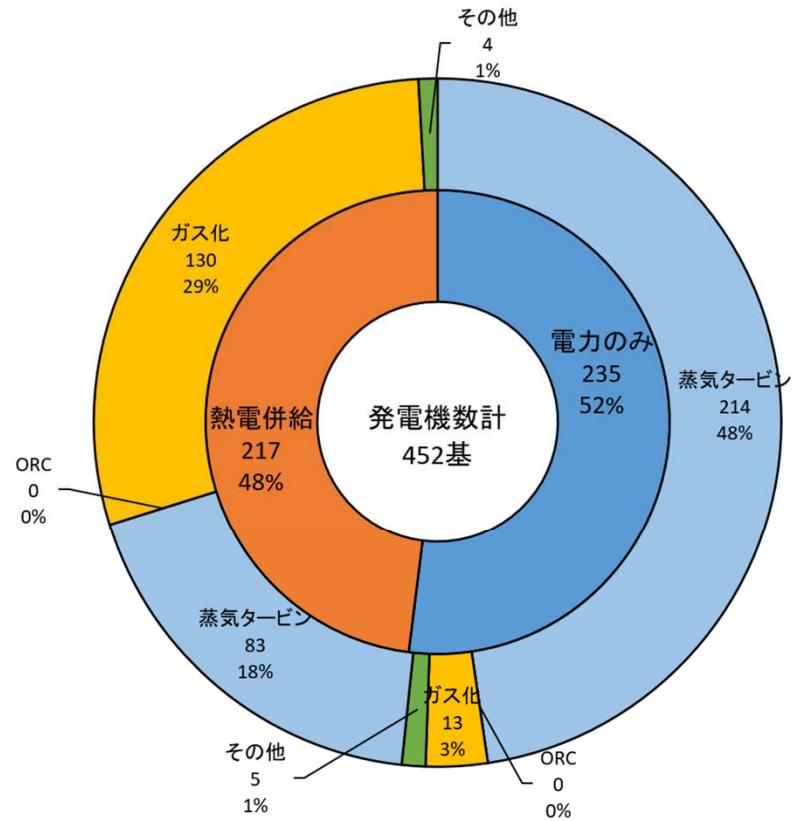
2-6. 混焼実施事業所数 燃料別内訳



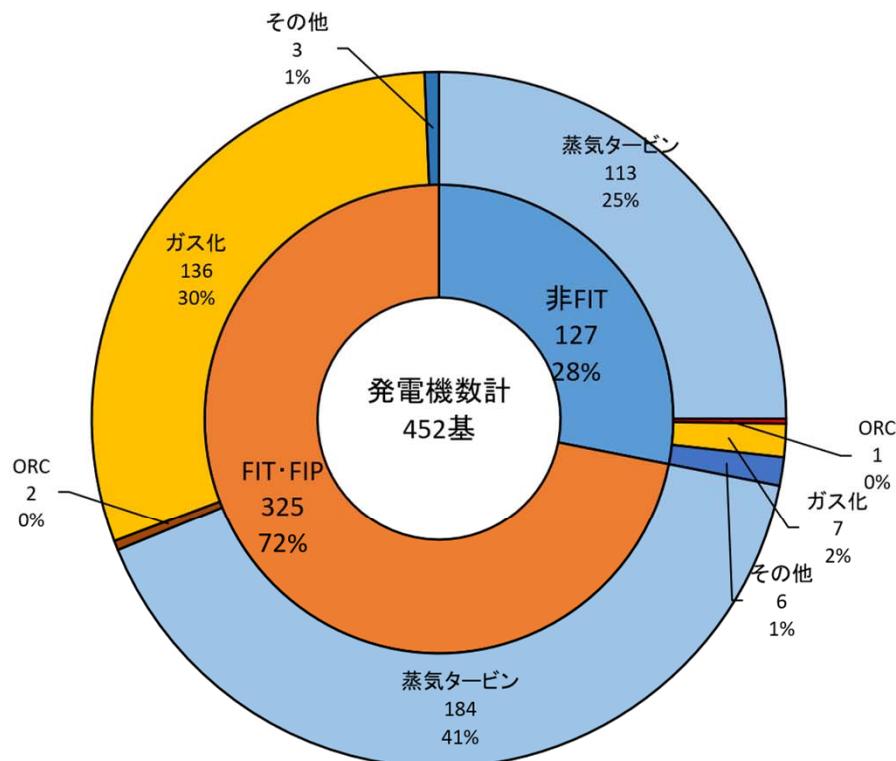
### 3-1-1. 業種別種類別発電機数

発電機総数は、平成30年290基、令和元年346基、令和2年337、令和3年368基、令和4年379基、令和5年440基、令和6年452基と推移しています。452基の内訳は、「電力のみ」が235基（52%）、「熱電供給」が219基（48%）です。発電機数のFIT・非FIT区分は、FIT・FIP売電が325基（72%）、非FITが127基（28%）となっています。

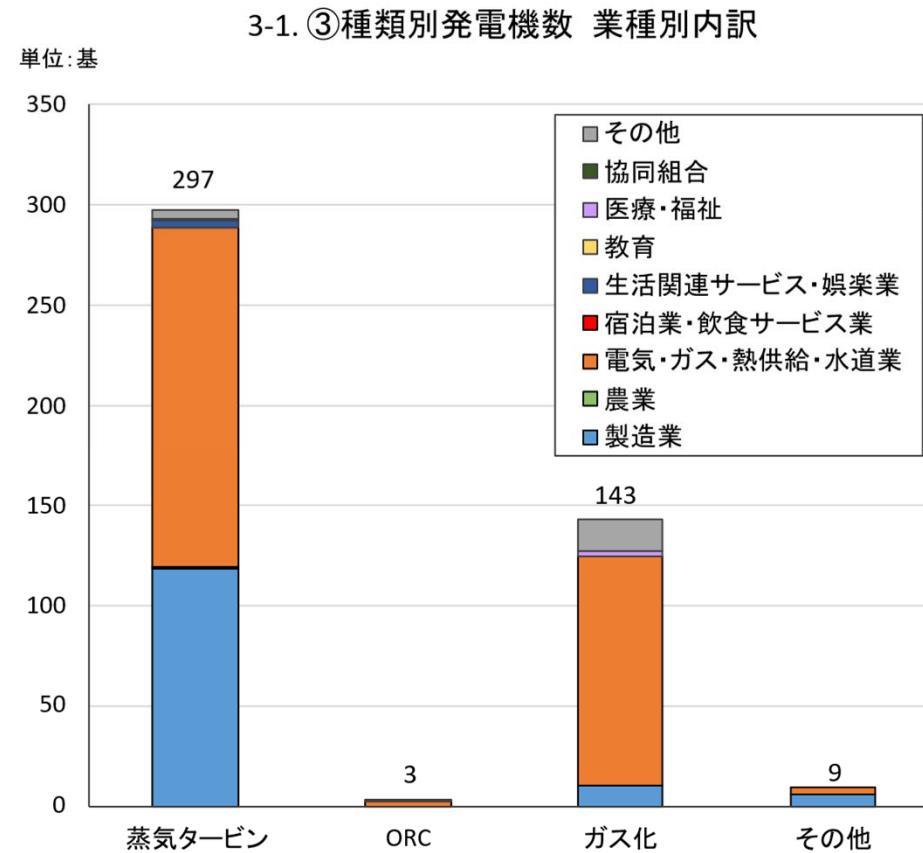
3-1. ①種類別発電機数 热電利用区分内訳



3-1. ②種類別発電機数 FIT・非FIT区分内訳



発電機総数452基の種類別では、「蒸気タービンシステム」が297基、「ORCシステム」が3基、「ガス化システム」が143基、「その他」が9基です。 業種別区分では「製造業」「電気・ガス・熱供給・水道業」が多くの割合を占めています。

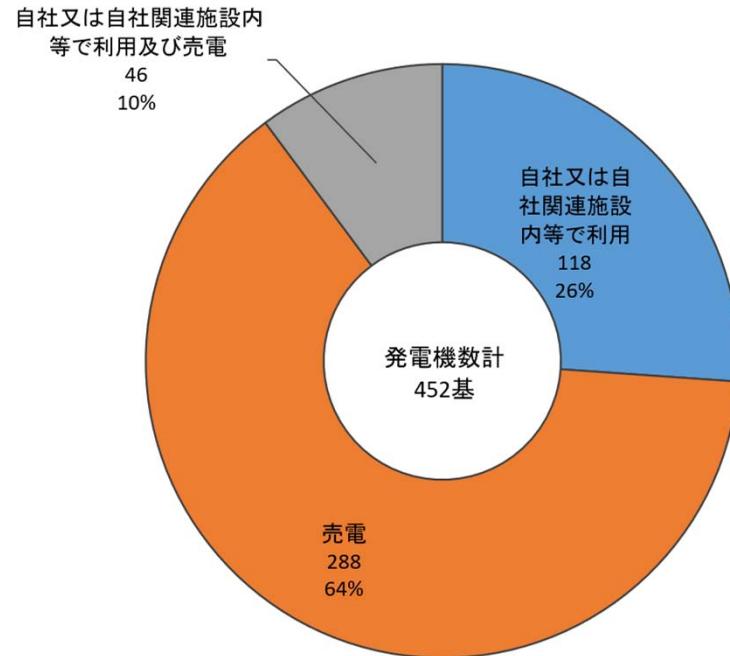


## 3-2. 用途別発電機数

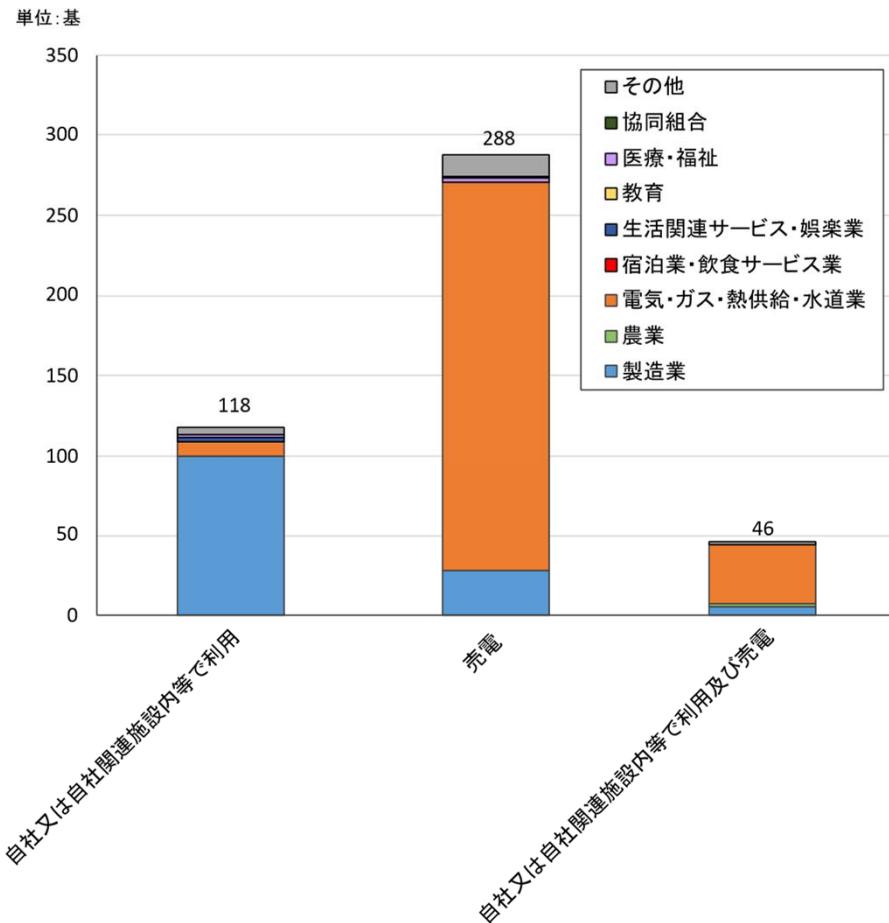
発電機総数452基の内、「自社又は自社関連施設内等」で利用している発電機数は118基（26%）、「売電」している発電機数は288基（64%）、「自社又は自社関連施設内等で利用及び売電」は46基（10%）です。

「自社又は自社関連施設内で利用」118基のうち業種別で多いのは「製造業」で100基、「売電」の業種別で多いのは288基のうち「電気・ガス・熱供給・水道業」で243基です。

3-2. ①用途別発電機内訳



3-2. ②用途別発電機数 業種別内訳

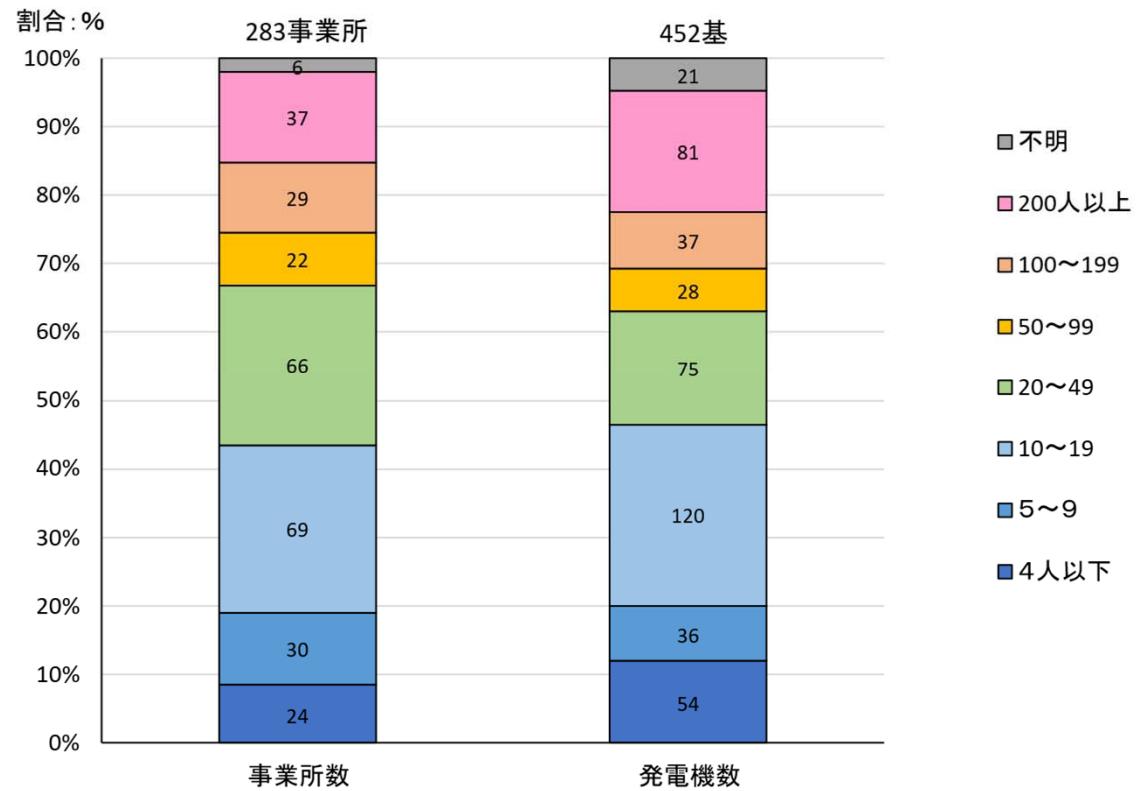


### 3-3. 従業員規模階層別事業所数及び発電機数

発電施設を持っている283事業所で、従業員規模階層で最も多いのは、「10～19人」の69事業所、次いで「20～49人」が66事業所、「200人以上」が37事業所です。

また発電機数452基のうち、従業員「10～19人」が120基、「200人以上」の事業所が817基、次いで「20～49人」が75基です。

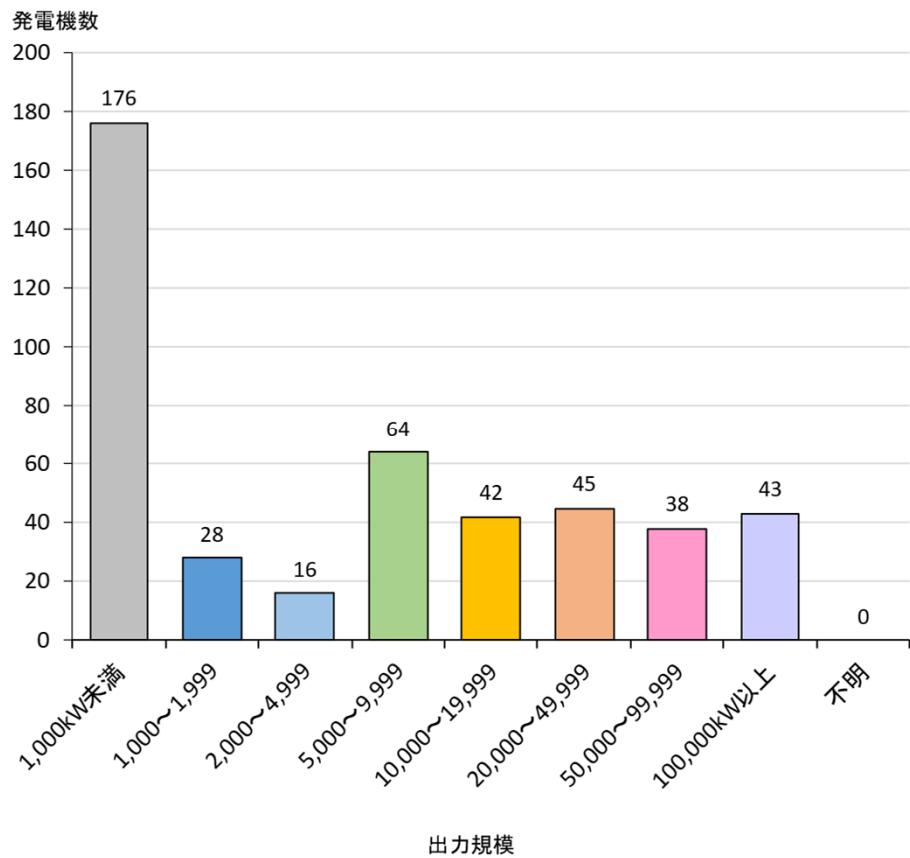
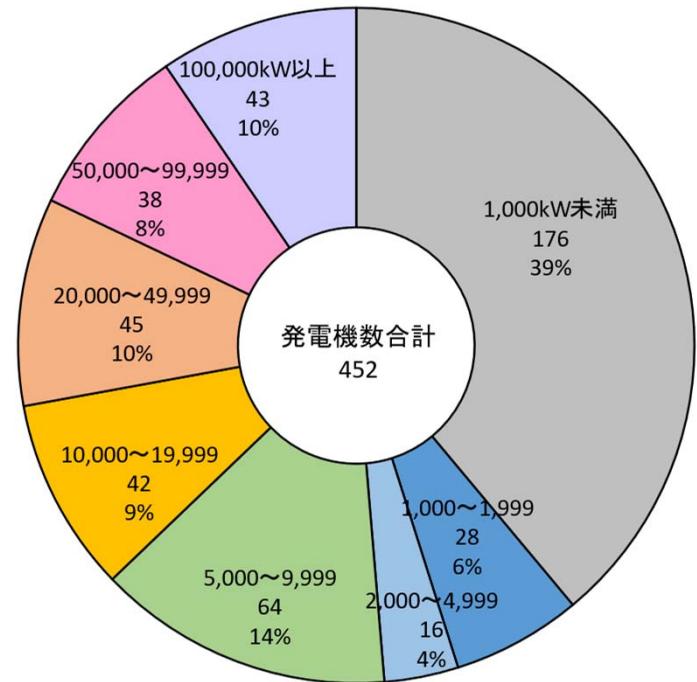
3-3. 事業所の従業員規模階層別事業所数及び発電機数



### 3-4.出力規模階層別発電機数

発電機数452基を出力規模で分類すると、最も多いのは「1000kW未満」の出力規模で発電機数は176基、次いで「5,000～9,999kW」が64基、「20,000～49,999kW」が45基、「100,000kW以上」が43基、「10,000～19,999kW」が42基、「50,000～99,999kW」が38基です。

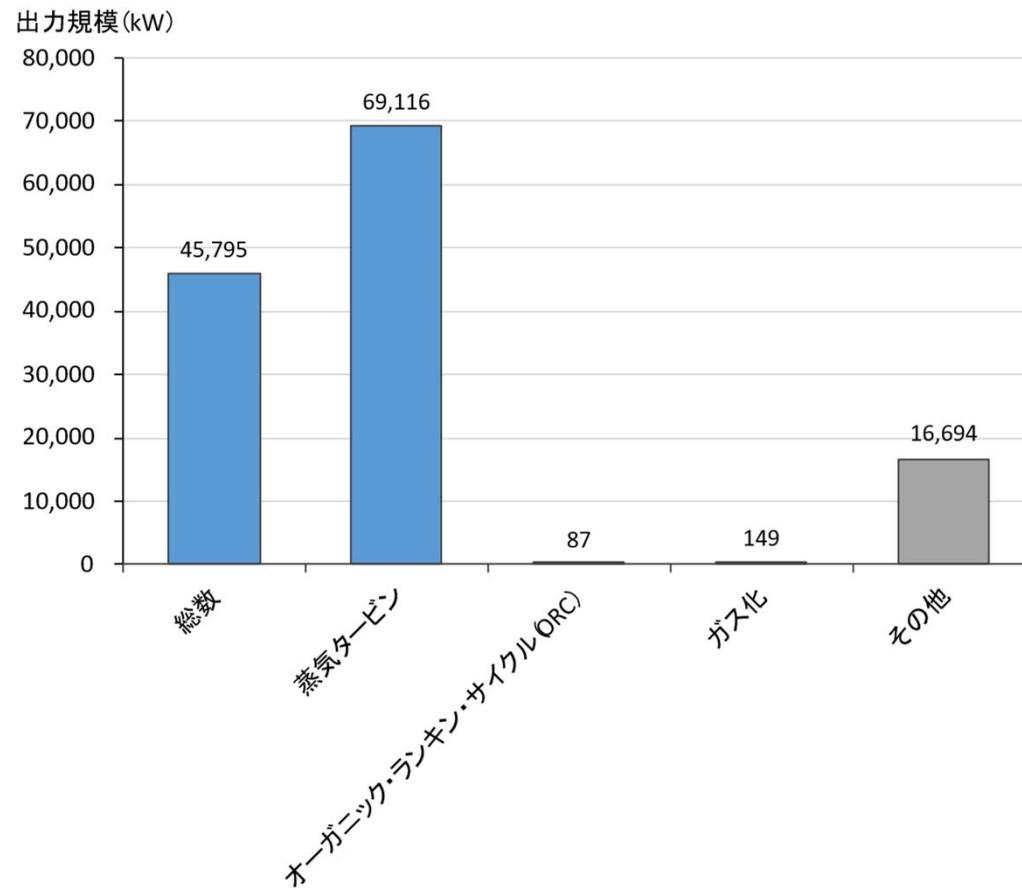
#### 3-4. 出力規模別発電機数



### 3-5. 発電機の種類別平均出力規模

発電機数452基の平均出力規模は、45,795 kWです。発電機の種類別出力規模は「蒸気タービンシステム」の出力が69,116 kW、「ORCシステム」が87kW、「ガス化システム」が149kW、「その他」が16,694kWです。

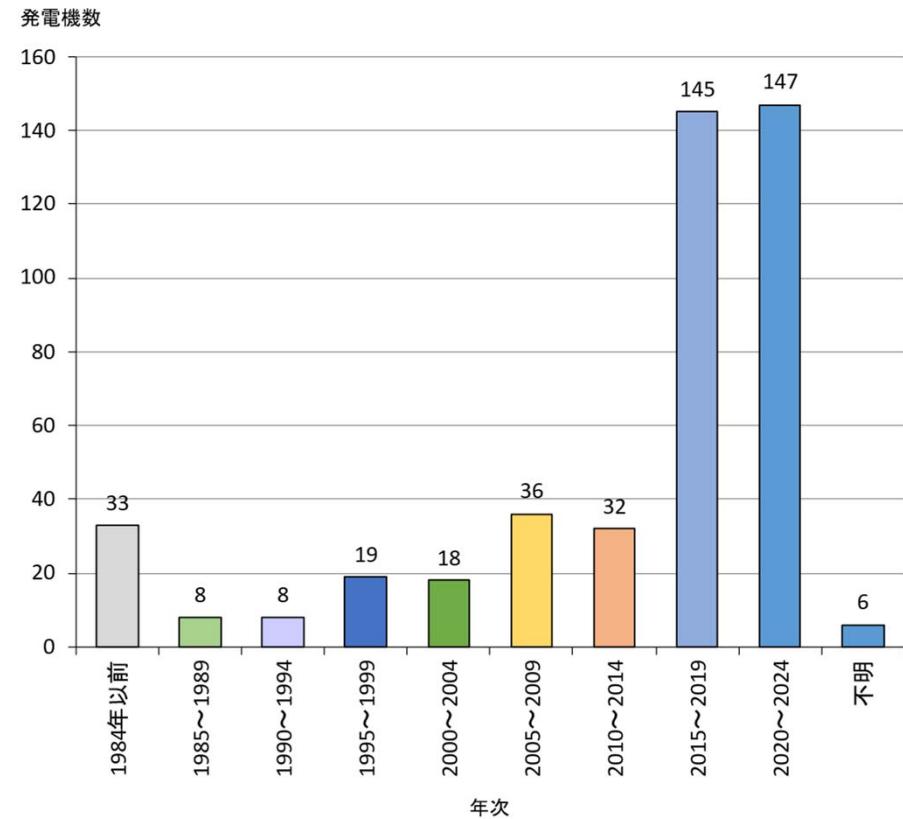
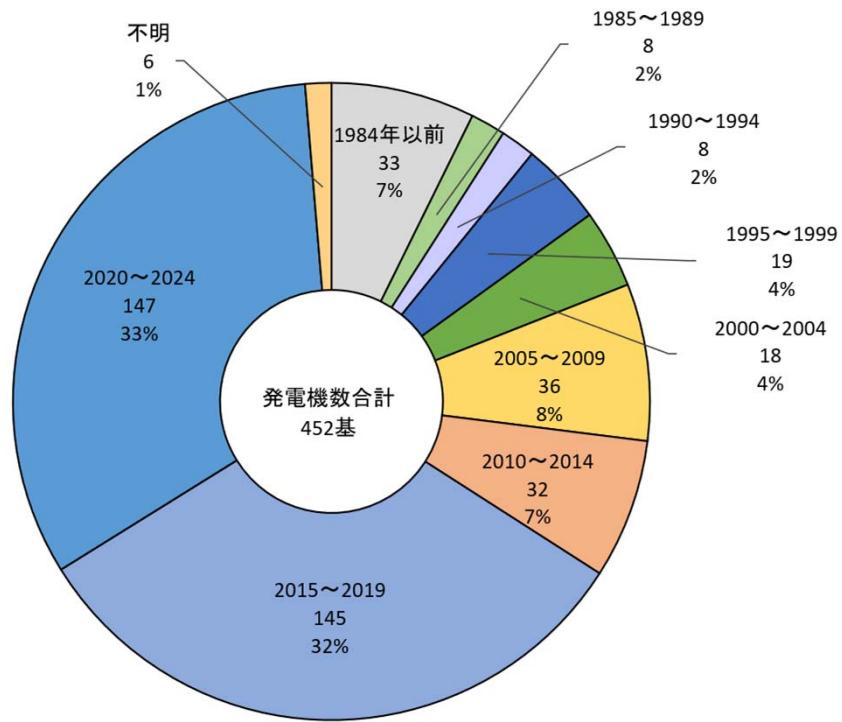
3-5. 発電機の種類別平均出力規模内訳



### 3-6. 使用年数階層別発電機数

発電機数452基の取得年は、「2020～2024年」が147基で最も多く、次いで「2015～2019年」が145基、「2005～2009年」が36基です。また、2010年以降の取得が324基で全体の72%になります。

#### 3-6. 使用年数階層別発電機数

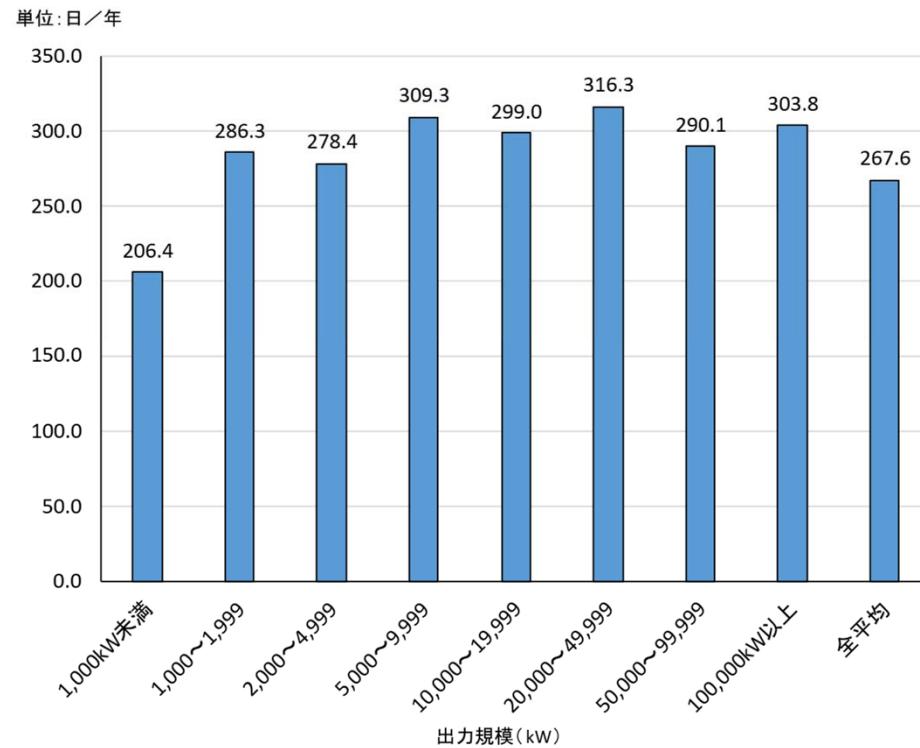


### 3-7.出力規模階層別平均稼働日数、時間

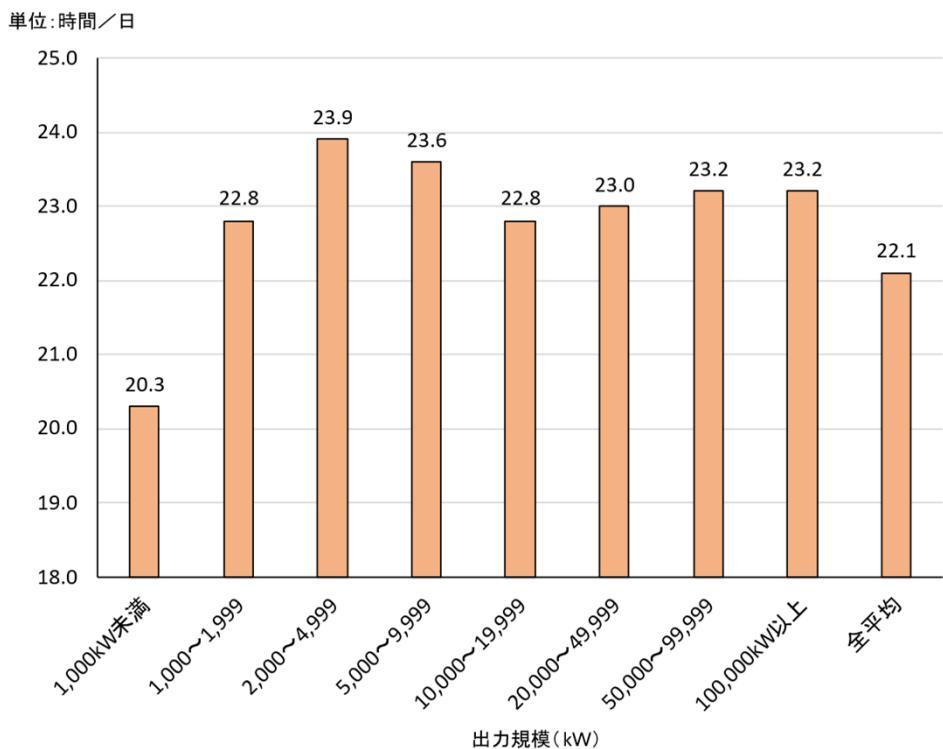
発電施設の平均稼働日数は、267.6日/年。最も稼働しているのは20,000～49,999kWの316.3日の稼働。最も少ない稼働は1,000kW未満の206.4日の稼働です。

1日当たりの平均稼働時間は、22.1時間/日。最も稼働時間が長いのは2,000～4,999kWの23.9時間/日となっています。

3-7. ①出力規模階層別平均稼働 日数／年間



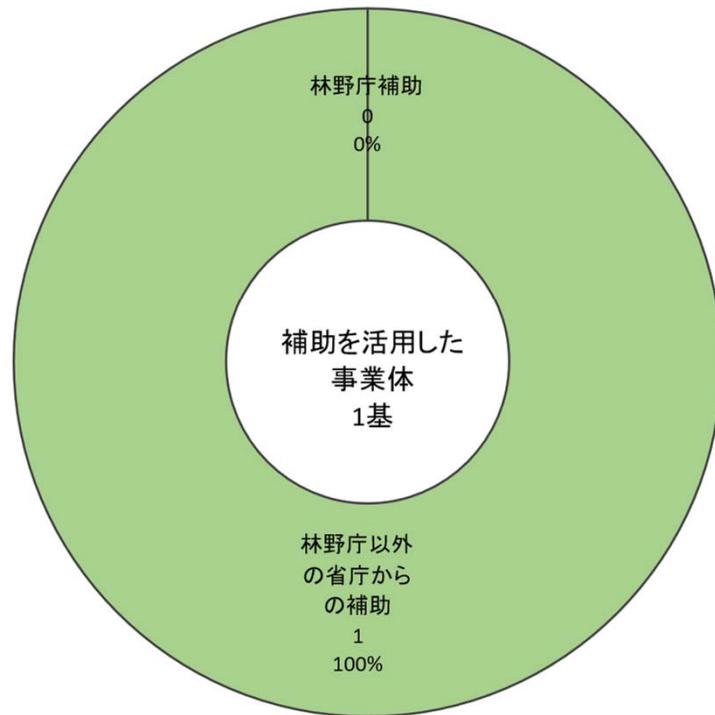
3-7. ②出力規模階層別平均稼働 一日あたり稼働時間



### 3-8.業種別補助金等活用数

令和6年に発電施設の導入に補助金を活用したのは1基（林野庁の補助以外のもの）でした。

3-8. 補助金活用数(発電機) ①補助金別区分

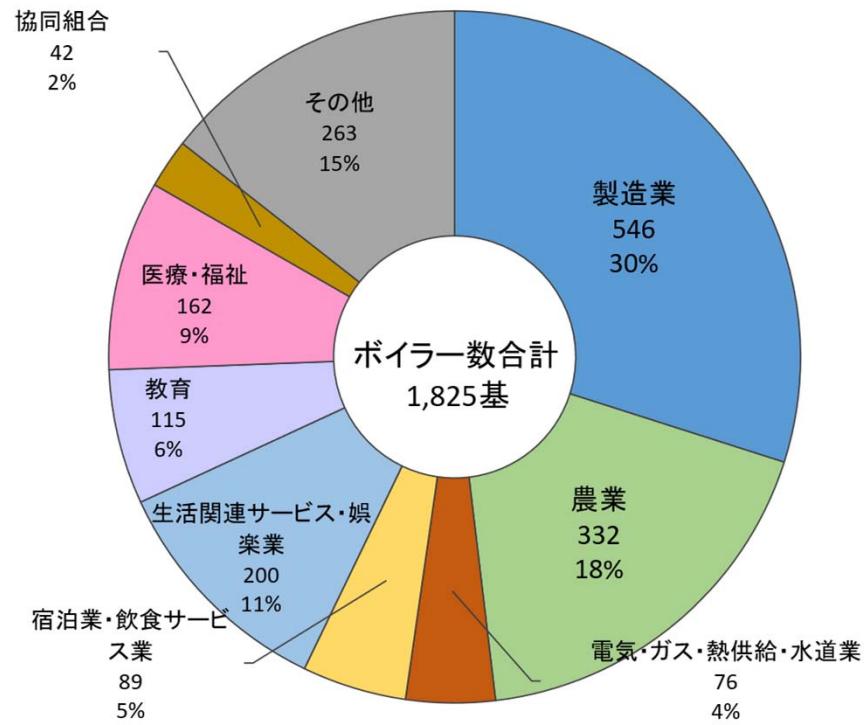


## 4-1. 業種別ボイラーナンバー

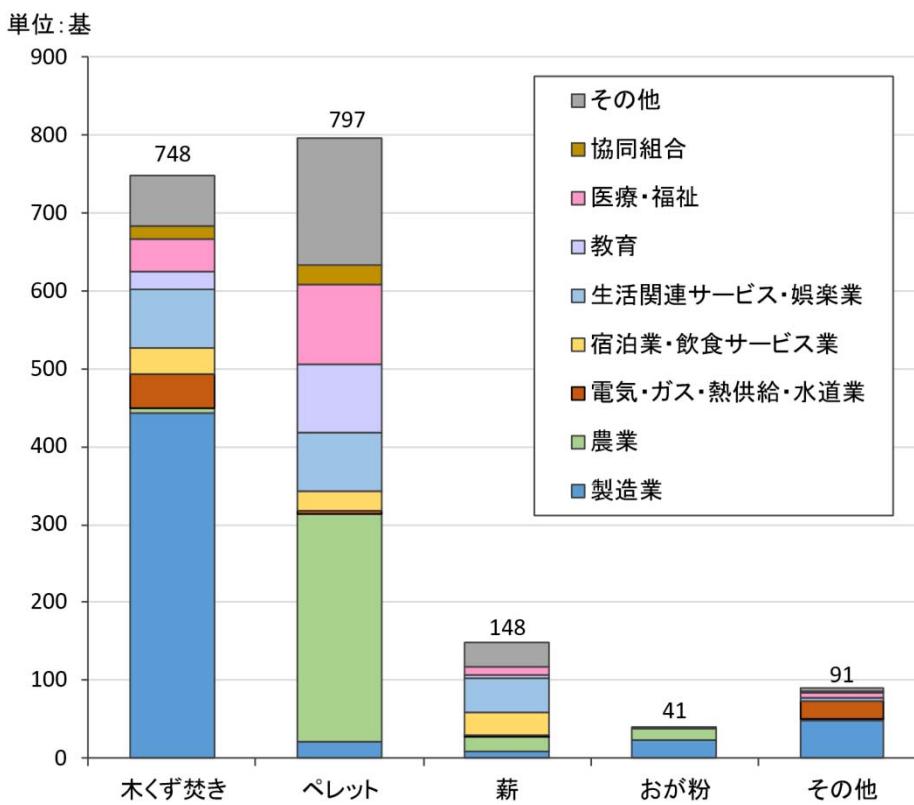
木質バイオマスエネルギーを利用しているボイラーナンバーは、平成30年2,064基、令和元年2,069基、令和2年1,941基、令和3年1,875基、令和4年1,849基、令和5年1,834基、令和6年1,825基と推移しています。

業種別内訳は、利用が多い業種から「製造業」546基・30%、「農業」が332基・18%となっています。  
ボイラー種別には、「ペレット」797基・44%、「木くず焚き」748基・41%となっています。

4-1. ①業種別ボイラーナンバー 業種別内訳



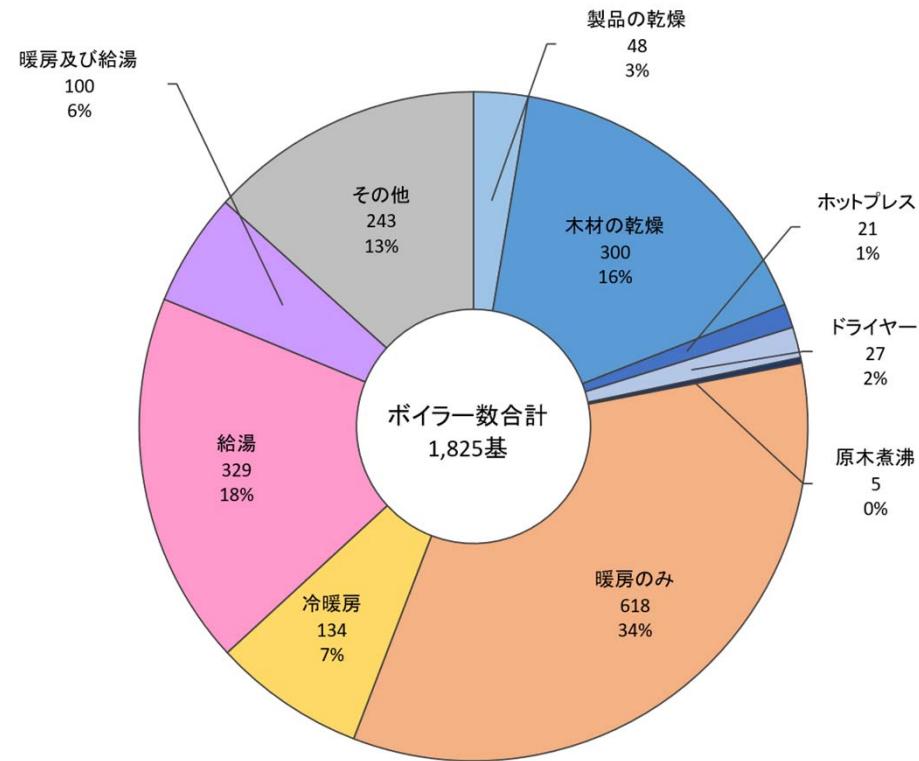
4-1. ②業種別ボイラーナンバー ボイラー種別内訳



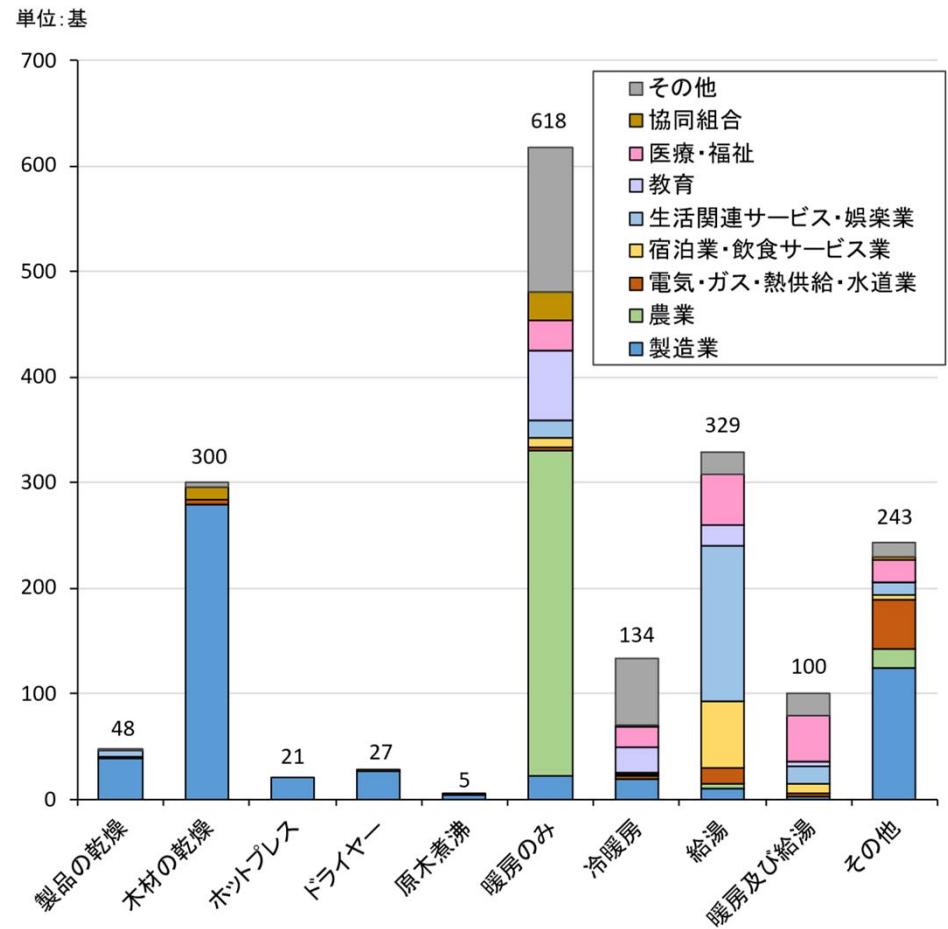
## 4-2. 熱の用途別ボイラーレ数

ボイラーの熱利用別では、利用の多い順から「暖房のみ」が618基、「給湯」が329基、「木材の乾燥」が300基です。

4-2. ①熱の用途別ボイラーレ数 ①熱の用途別内訳



4-2. ②熱の用途別ボイラーレ数 用途別－業種別内訳

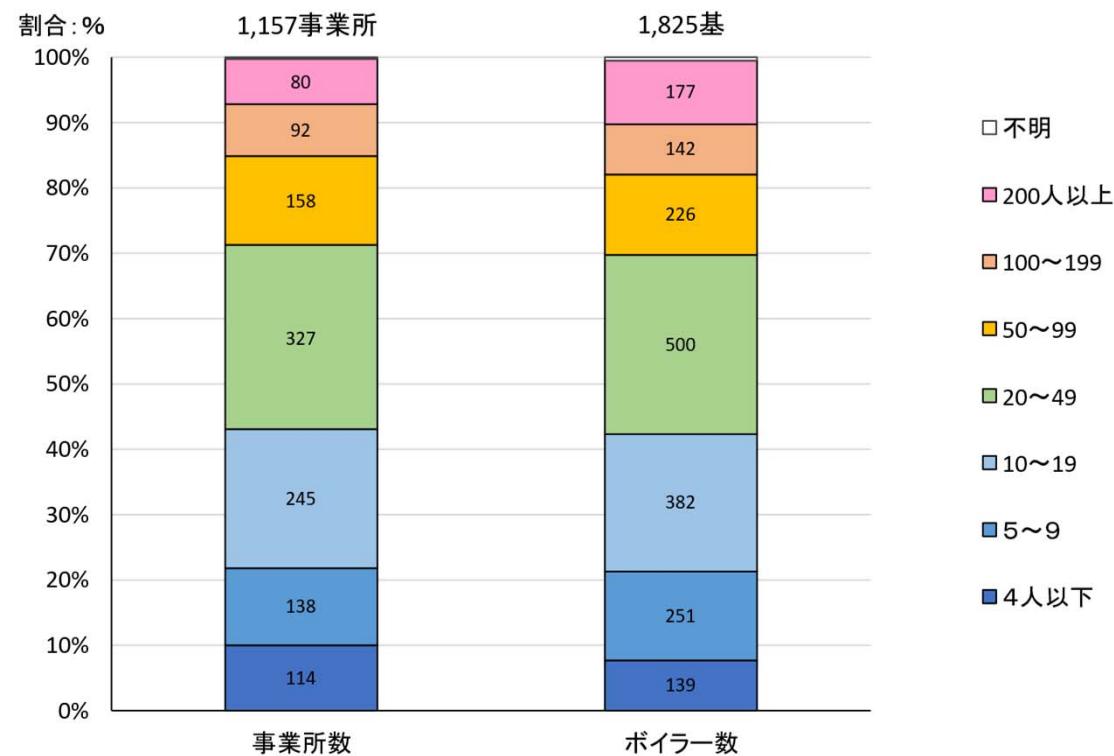


## 4-3. 従業員規模階層別事業所数及びボイラー数

ボイラーを有する事業所は、平成30年1,295事業所、令和元年1,290事業所、令和2年1,223事業所、令和3年1,173事業所、令和4年1,170事業所、令和5年1,161事業所、令和6年1,157事業所と減少傾向です。

従業員規模別内訳をみると、「20～49人」が327事業所、「10～19人」が245事業所、「50～99人」が158事業所などとなっています。

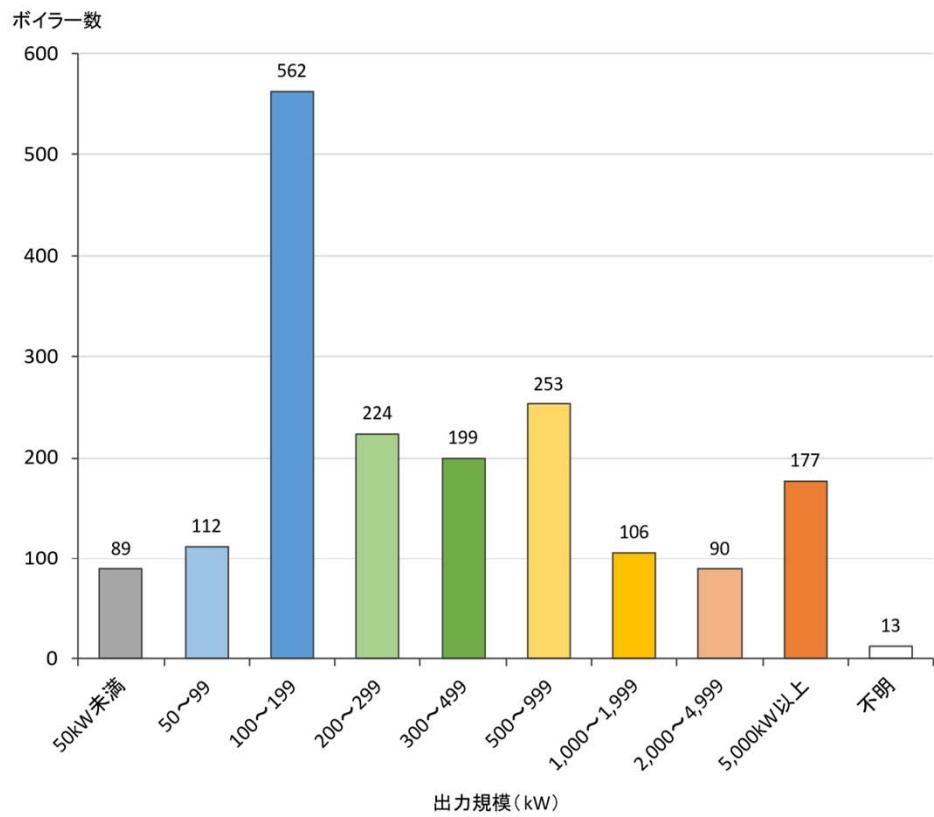
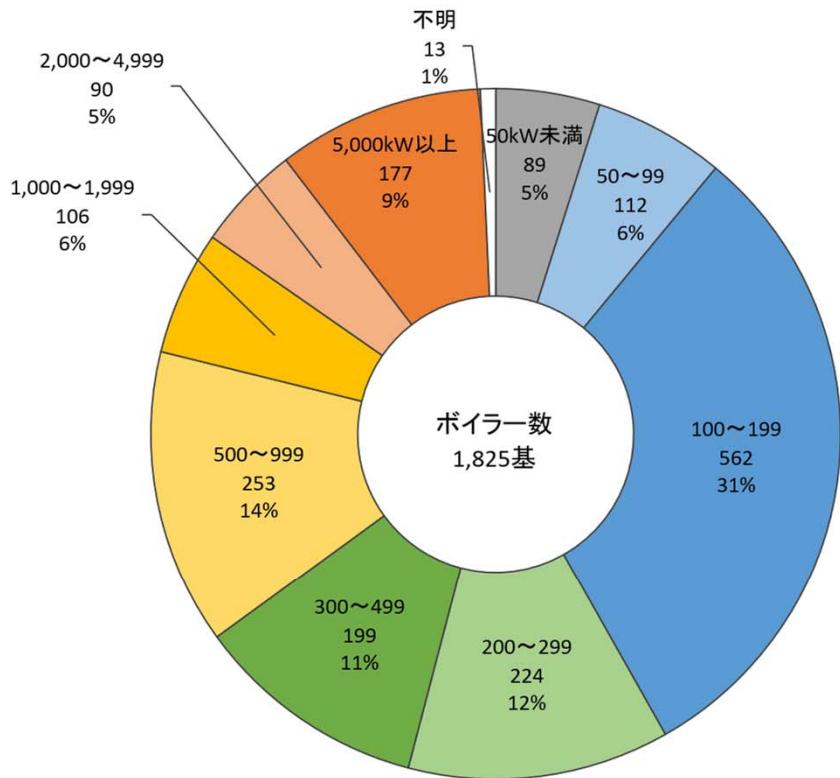
4-3. 事業所の従業員規模階層別事業所数及びボイラー数



## 4-4.出力規模階層別ボイラー数

ボイラー数の内訳を出力規模階層別（kW）に見ると、最も多い順に「100～199kW」が562基、「500～999kW」が253基、「200～299kW」が224基と続きます。

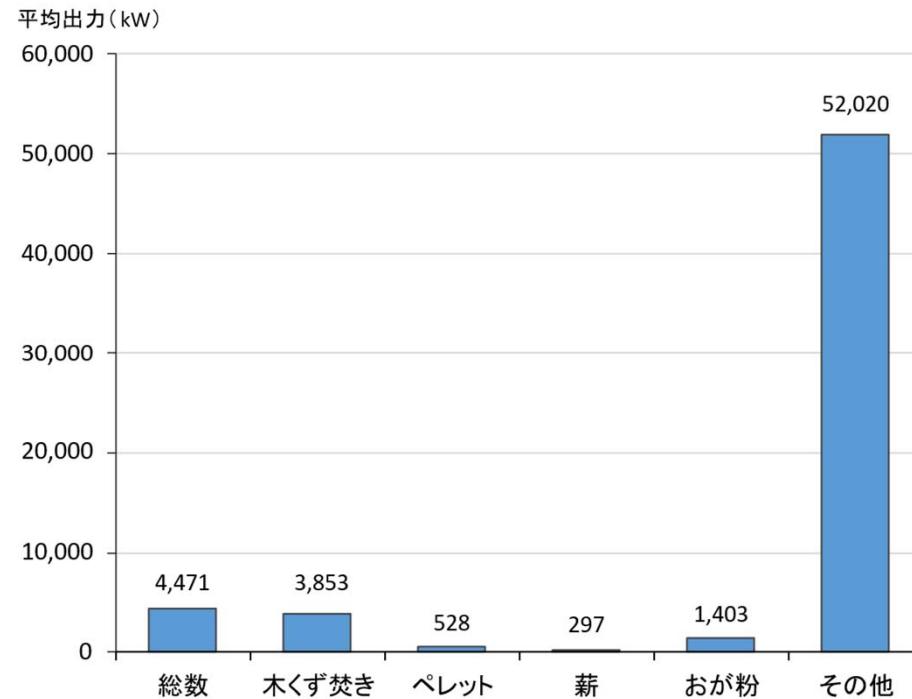
### 4-4. 出力規模階層別ボイラー数



## 4-5. 種類別平均出力規模

ボイラーの平均出力 (kW) 規模は4,471kWで、種類別平均出力規模では「木くず焚き」が3,853kW、「おが粉」が1,403kW、「その他」のボイラーが52,020kWです。

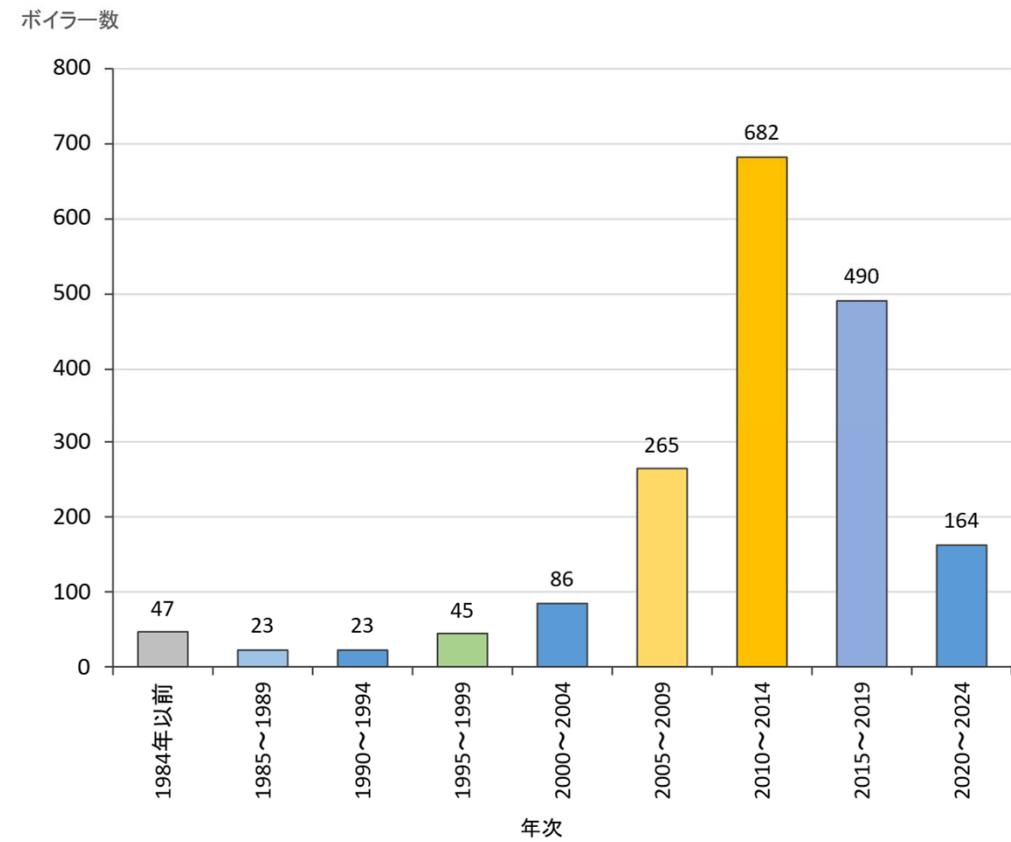
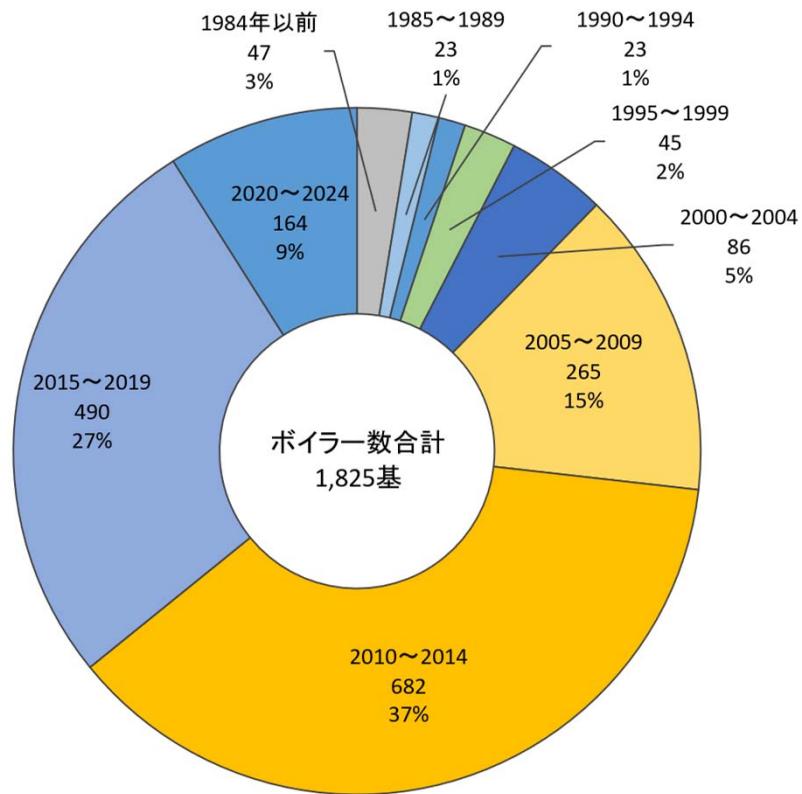
4-5. ボイラーの種類別平均出力規模 平均出力



## 4-6. 取得年階層別ボイラー数

取得年別ボイラー数は、最も多い順から「2010～2014年」が682基、「2015～2019年」が490基、「2005～2009年」が265基です。また2010年以降の取得が1,336基で全体の73%になります。

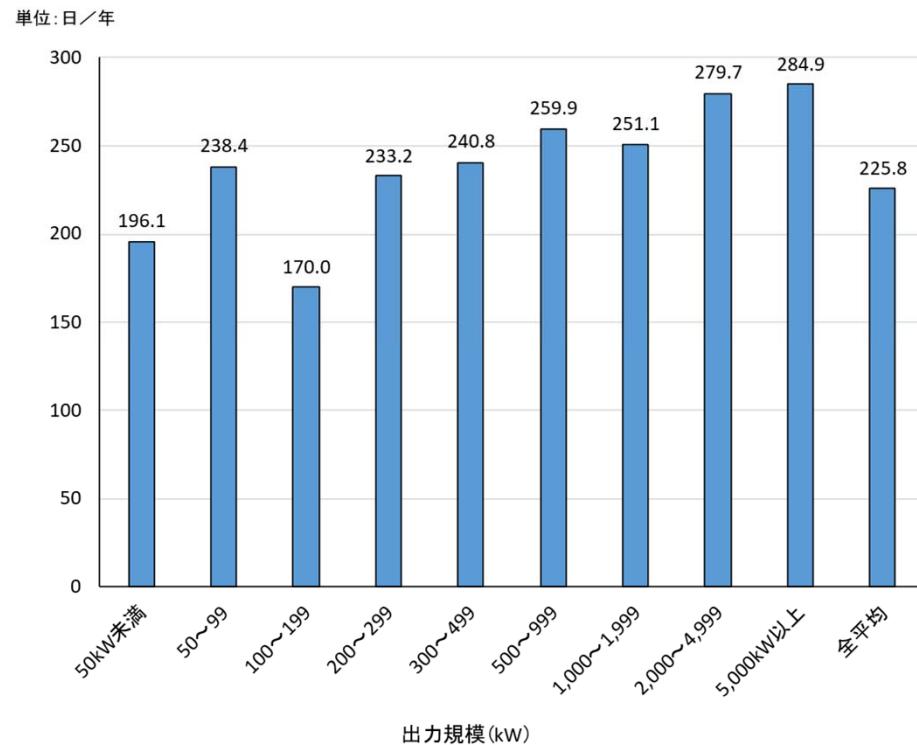
### 4-6. 使用年数階層別ボイラー数



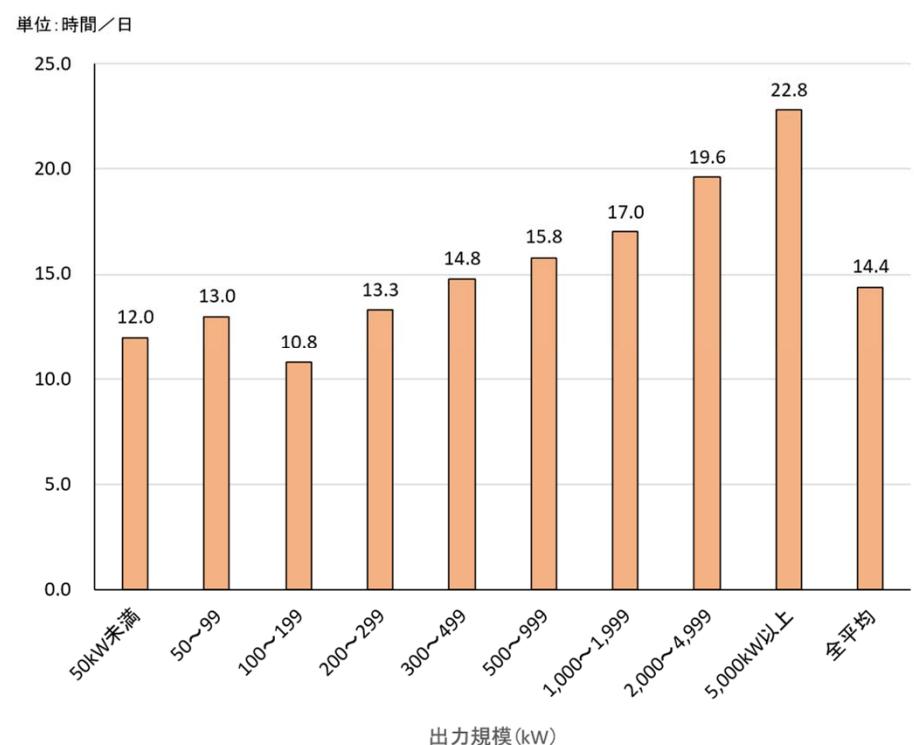
## 4-7.出力規模階層別平均稼働日数、時間 (kWによる表示のもの)

ボイラーの平均年間稼働日数は、平均で225.8日/年で、1日当たりの平均稼働時間は14.4時間/日です。

4-7. 出力規模階層別平均稼働 ①年間稼働日数



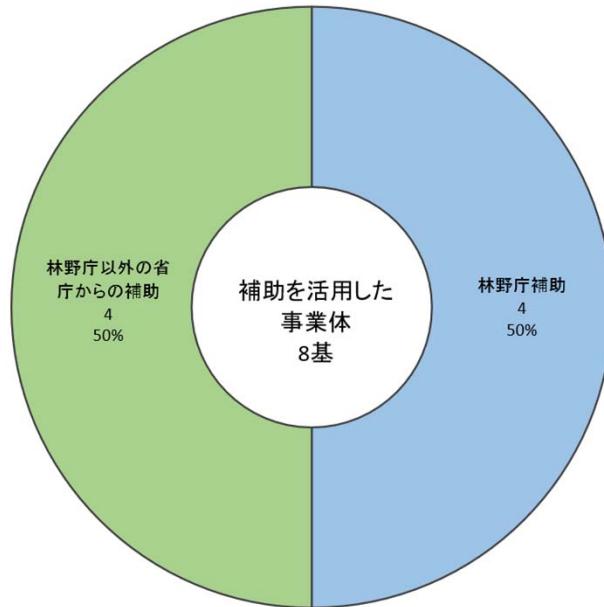
4-7. 出力規模階層別平均稼働 ②1日あたり稼働時間



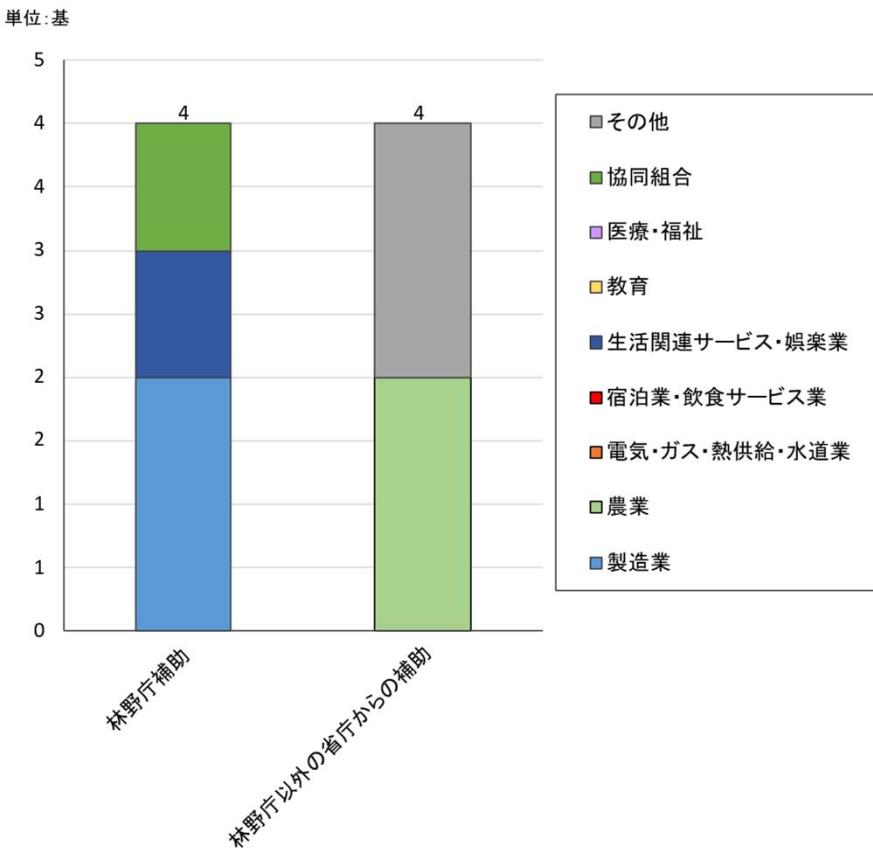
## 4-8.業種補助金等活用数

ボイラー導入に補助金を活用した8基の内、林野庁補助金は4基、林野庁以外の省庁から受けた補助金は4基です。平成28年調査では67基だったことから、ボイラーに関する補助金の利用は減少しています。

4-8. ①補助金活用数(ボイラー) 補助金別区分



4-8. ②補助金活用数(ボイラー) 業種別区分



## 5.その他（付帯設備等）の業種別補助金等活用数

付帯設備に補助金を活用した3基の内、林野庁からの補助を受けた設備は0基、林野庁以外の省庁からの補助は3基でした。平成28年調査では15基だったことから、補助金の利用は減少しています。

5.①補助金活用数(付帯設備等) 補助金別区分

